

美術科学習指導案

日時 令和元年5月17日(金)第1校時
対象 2年4組(男子18名 女子18名 計36名)
指導者 教諭 前之園 礼央

1 題材 2年 A表現(デザインに表現する)

2 題材名 「ここにあるべきベンチとは」～使う人や用途に応じてベンチをデザインしよう～

3 題材設定の理由

(1) 題材観

デザイン (design) という言葉は、我が国では一般に下絵を描いたり、物の形を考えたりするというイメージを持たれるが、語源であるラテン語の「designare」は「指示」や「計画」という意味を持ち、物事の基本的な構成をすることや、予定的な計画を行うことなどもデザインの大きな要素とされている。これまで人類は集団を形成し社会を構築する中で、政治制度や文化、手工芸品や工業製品など、有形無形に関わらず多くの物事を創造してきた。これら人類が豊かでよりよい生活を目指して物事を計画、構成してかたち創ってきた営みそのものが、いわばデザインといえよう。また、今日の社会は「知識基盤社会」と呼ばれ、社会の構造的な変化の中でグローバル化が一層進み、幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断が求められるようになると考えられている。また同時に、人工知能の発達に伴うシンギュラリティの概念に代表されるように、今後、大量の情報を整理し、過去の事例等を基準に正確に速く処理するなどの作業の多くは、コンピュータ等が担うようになる一方で、人間の強みである感性や美意識などが、今後ますます重要になるといわれている。例えば今日、自動車や情報端末機器など多くの工業製品は著しい発展を遂げ、性能面や機能面などでの差別化はそれらが世の中に登場したときほど容易ではなくなっている。そのような状況で消費者に製品の購買を決定させるものは、その商品が提供してくれる生活や考え、また、それらを表す形や色彩などであろう。また、情報が溢れ容易に手に入る今日、企業などにおいて、論理的な思考や理性的な判断のみでは経営や運営がコモディティー化(同質化)し、未知の問題への対応に課題が生じるため、直感で感情な思考や判断をいかに効果的に取り込むかに多くの工夫がなされているという。

これからの変化が激しく予測が困難な時代において、人類がこれまで創造してきた豊かな文化や文明を継承し発展させつつ、今日抱える課題をよりよく解決して持続可能で豊かな社会を創造していくためには、個々の文脈や不確実な事象に対して創造性を発揮させて自分の思いや考えを表現したり、他者と共感し協働したりして課題を見だし解決して、新たな価値を創造する力が一層求められるようになると思う。これらは前述したデザインが果たす役割やデザインすることによって働く力と大きく関わるものである。身の回りに物が溢れ、さらに3Dプリンターが普及するなど、誰もが気軽にイメージしたものを創り出せる今日だからこそ、理想とする未来を思い描き、目的や条件に応じて計画し、それらを形や色彩などと結びつける視点を持って表現したり鑑賞したりする力は、真の豊かさが問われるこれからの社会において求められる資質・能力であると思う。

中学生の時期は心身が著しく成長し大人に近づき、身の回りの世界から広く他の世界へと視野を広げようと願う時期である。また視野の広がりと共に、健全な批判的精神の発達により、学校を含め、現在の地域や社会のよさなどを再認識するとともに、残されている課題や新たに生じている問題に気付く時期でもある。このような時期の生徒に、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感を伴わせながら理解させることで、生徒が対象や事象を捉える造形的な視点を豊かにし、目的や条件に応じてそれらを用いて身の回りの地域や社会のよさを一層豊かにしたり、問題や課題をよりよく解決したりする学習を行うことは、これからの社会を豊かに生きる大きな力になると考える。

(2) 指導観

本題材は、事前に、生徒が身の回りの「好ましい」と感じる空間や場所と「好ましくない」と感じる空間や場所を形や色彩、材料（質感）、光といった造形的な視点で鑑賞し、自分の「好ましい・好ましくない」といった感情や感覚と形や色彩などの造形の要素とのつながりについて考え、見方や感じ方を深める学習を踏まえて行うもので、学校で生活したり訪れたりする人々が使うベンチを、設置する場所や使う人の気持ち、ベンチの用途を考えデザインし、モデルを制作するものである。

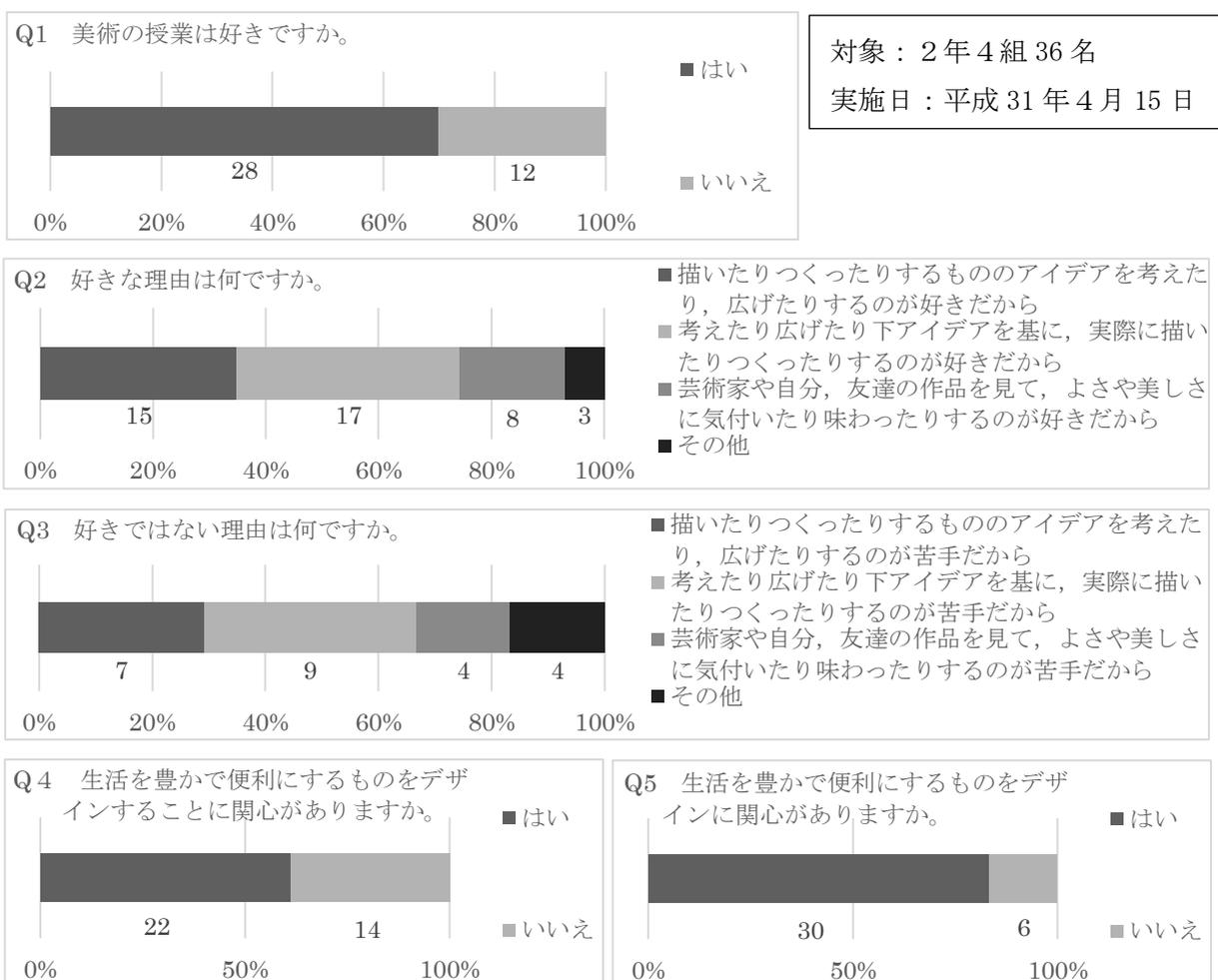
題材の導入の段階では、学校のいろいろな場所を生徒に見て回らせたり、生徒や教職員を始め、保護者など来校される方々など、学校で生活する人や訪れる人を想起させたりして、空間や場所の雰囲気を生かし、誰がどのような目的で用いるベンチなのかを考えさせたい。例えば、「靴箱前の池の静かで落ち着く雰囲気の場所に、先輩と後輩が気軽に話したり相談したりするためのベンチがあるといいな」とか「階段の踊り場の少し寂しい雰囲気の場所を明るくしたいから、生徒が楽しくお話をして過ごしたり、来校されたお年寄りの方などが少し休めるベンチがあるといいな」など、生徒にベンチを使う人の気持ちや用途に応じた形や色彩、材料などを考えさせ、他者へ意識を広げてデザインするなどベンチの主題を明確にさせたい。そして創出した主題を基にアイデアスケッチを行わせ、目的や条件に応じた形や色彩、材料などを考えるなど、どのようなデザインのベンチにするか考えさせたい。アイデアを展開の際は紙に描かせるだけでなく、油土を準備して実際に立体的に表してデザインを検討することもできるようにし、生徒の発想や構想が一層豊かに展開されるようにしたい。また、必要に応じて班でアイデアを紹介させる話し合いの場を設け、ベンチの形や色彩などのデザインと用途などとのつながりが客観的な視点からも妥当であるかを検証させたい。

題材の展開の段階では、アイデアスケッチを基に、造形粘土やポスターカラーなどを用いてベンチのモデルを制作させたい。また、造形粘土以外にも麻布やスポンジなど多様な材料を提示し、生徒にベンチの用途に応じて材料の組合せなどを工夫させたり、材料が持つイメージからよりよいアイデアを誘発してデザインを改善させたりできるようにしたい。また、学校で準備する材料以外にも各自で材料を持参してもよいことを伝え、材料が持つイメージを生かして豊かに発想し構想を練ったアイデアがよりよく具現化できるようにさせるとともに、主体的に制作する意欲を引き出したい。さらに、実際にベンチに座っている人のモデルを制作させるなど、考えたアイデアが他者に伝わりやすくなるような創造的な表現の工夫を考えさせたい。

題材の終末の段階では、生徒にベンチを設置したい校内の場所をカメラで撮影させ出力し、その写真を背景にベンチのモデルを置いてカメラで撮影した画像を画用紙に貼り、文章で説明を補いながら作品を紹介するパネルを制作させたい。文章にまとめることでデザインに込めた思いや考えが他者に伝わりやすくなるとともに、自分自身の考えを整理され、学習の深まりが期待される。

(3) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。



本学級の生徒は明るく素直で、学習活動にも意欲的に取り組む。一方で美術やデザインに表すことを「好き、関心がある」と答える生徒が7割弱にとどまり、発想や構想の段階で生徒が心の中に思い描いた主題を、創造的に表す段階でイメージ通りにできないと感じる生徒が多いことがその原因の一つと考えられる。一方で、生活を豊かで便利にするデザインについては8割を超える生徒が「関心がある」と答えており、形や色彩などを生かして生活を豊かにすることへの関心は高いといえる。そこで、生徒に本題材が単にベンチのデザインを考えてモデルを制作することのみを目的としているのではなく、形や色彩などが感情にもたらす効果や、美術が生活や社会を美しく豊かにすることについての理解を深めることも目的としていることを実感させ、学習へより主体的に臨めるようにさせたい。

4 題材の指導目標

(1) 知識及び技能

形や色彩、材料の質感などが感情にもたらす効果を理解するとともに、材料を生かし用途に応じた形や色彩で創造的に表す。

(2) 思考力、判断力、表現力等

使う人の気持ちや用途などと美しさなどの調和を総合的に考え、形や色彩の特徴や材料の特性などを生かしてベンチのデザインを考える。

(3) 学びに向かう力，人間性等

形や色彩などから感じる感情を捉えようとするとともに，使う人の気持ちや用途などと美しさなどの調和を総合的に考えてベンチのデザインを考え，創造的かつ主体的に表そうとする。

5 指導計画（全体 10 時間：本時／10）

時	主な学習活動	時	主な学習の活動
1	・ベンチを置きたい場所を見つけ，使う人を想定してベンチの用途を考える。 【①解決型プロセス】	(本時) 4	・友達からの意見を効果的に取り入れて，ベンチのよりよいアイデアを考える。 【① 解決型プロセス】
2	・使う人やベンチの用途からイメージを広げ，ベンチのアイデアスケッチをする。 【①解決型プロセス】	5 └ 8	・紙粘土などの材料を用いて，ベンチのモデルをつくる。 【② 創造型プロセス】
3	・ベンチのアイデアをよりよいものとするために，班で紹介し合う。 【③ 形成型プロセス】	9 ・ 10	・ベンチの用途などのイメージが伝わるようモデルを撮影する。 ・デザインしたベンチ目的や用途などを工夫してまとめる。 【②創造型プロセス】

6 学習に即した単位時間の評価規準及び生徒への手立て

時	知識及び技能	思考力，判断力，表現力	学びに向かう力，人間性等
1	・校内の場所の形や色彩がもたらすイメージや全体の雰囲気などを捉える。 [C:形や色彩などへの視点を持たせる。]	・ベンチを置きたい場所の雰囲気などからベンチを使う人の気持ちや用途を考える。 [C:場の雰囲気とベンチの使う人や目的などとの関連を持たせる。]	・校内の場所の形や色彩がもたらすイメージを捉え，ベンチのアイデアを考えようとする。 [C:美術の働きで学校生活をより豊かにするイメージを持たせる。]
2		・ベンチを使う人の気持ちや用途からイメージを広げ，デザインを考える。 [C:使う人や目的などのイメージを持たせる。]	・ベンチを使う人の気持ちや用途からイメージを広げ，デザインを考えようとする。 [C:学校生活の中の夢や願望などを想起させる。]
3	・形や色彩などとそれらが感情にもたらす効果などを捉えるとともに，考えたアイデアを工夫して絵や立体に表す。 [C:形や色彩とそれらが感情にもたらす効果を意識させる。]		・形や色彩などとそれらが感情にもたらす効果などを捉えるとともに，考えたアイデアを工夫して絵や立体に表そうとする。 [C:他の生徒のアイデアのよさに関心を持たせる。]
4 (本時)	・形や色彩などとそれらが感情にもたらす効果などを捉えるとともに，材料や用具を生かし工夫して表す。 [C:アイデアの表現方法の見通しを持たせる。]	・客観的な視点から他の生徒からの意見を目的に応じて取り入れ，よりよいデザインを考える。 [C:使う人や目的に応じたデザインになっているか考えさせる。]	・形や色彩などとそれらが感情にもたらす効果などを捉えようとするとともに，客観的な視点から他の生徒からの意見を取り入れ，よりよいデザインを考え，材料や用具を生かし工夫して表そうとする。 [C:自分のアイデアの変化などに関心を持たせる。]
5 └ 8	・形や色彩とベンチの用途などとのつながりを捉えるとともに，材料や用具を生かし工夫してモデルに表す。 [C:アイデアの表現方法の見通しを持たせる。]		・形や色彩とベンチの用途などとのつながりを捉えようとするとともに，材料や用具を生かし工夫してモデルにあらわそうとする。 [C:アイデアを具体化させることへの関心を持たせる。]
9		・ベンチのモデルと背景のパネルとを合わせ，目的や用途が伝わる写真の構図などの工夫を考える。 [C:アイデアがよりよく表れる表現の工夫を意識させる。]	・ベンチのモデルと背景のパネルとを合わせ，目的や用途が伝わる写真の構図などの工夫を考えようとする。 [C:アイデアがよりよく現れる工夫への関心を持たせる。]

10	<p>・色彩の性質を理解するとともに、デザインしたベンチの用途が伝わるよう工夫してパネルに表す。 [C:アイデアがよりよく伝わる表現の工夫を意識させる。]</p>		<p>・色彩の理解しようとするとともに、ベンチの用途が伝わるよう工夫してパネルに表そうとする。 [C:アイデアが夜伝わる工夫への感心を持たせる。]</p>
----	---	--	---

[C:] はBに到達しない生徒への手立てとする。

8 本校の研究内容との関連から（教科論文、本時の手立てとの関連）

研究の視点Ⅰ 本研究における「society5.0で求められる資質・能力」を育成するための指導の工夫

本題材において「読み解き・対話する活動」を充実させるために、「美ノート」を活用させてデザインの形や色彩などが感情にもたらす効果について実感的に理解させるなどした。また「思考・吟味する活動」を充実させるために、「振り返りシート」を用いて主題を表現するための自己課題や学習のつながりが実感できるようにした。さらに「価値を見つけ・生み出す活動」を充実させるために、「アートアルバム」を用いて、本題材や前に行った、好ましい空間や場所などを鑑賞する題材の振り返りシートや、本題材のアイデアスケッチなどをファイリングさせ、学習を俯瞰して捉えさせるなどした。

研究の視点Ⅱ 授業・デザインの工夫

本題材における各活動を①解決型プロセス、②形成型プロセス、③創造型プロセスのそれぞれの過程に照らし位置づけ、思考・判断・表現の過程の充実を図った。また、本題材の前に好ましい空間や場所などを鑑賞する題材を配置し、表現と鑑賞の相互の関連を図ることで、形や色彩などの造形の要素を捉える造形的な視点を豊かに働かせて対象や事象を捉え、創造的に考えを巡らせる資質・能力の育成が一層確かなに行われるようにした。

研究の視点Ⅲ カリキュラム・デザインの工夫

教科の目標や「society5.0で求められている資質・能力」と関連する学校教育目標を達成するために、本題材で育む資質・能力を明確にし、年間指導計画の中に位置づけることで、本題材で育成すべき資質・能力と美術科で育成すべき資質・能力との関係がより明確になったと考える。今後は総合的な学習の時間などとの関係を資質・能力のつながりの視点で整理していく必要があると考える。

9 本時の実際（4/10）

(1) 指導目標

ア 知識及び技能

形や色彩や、材料などから感じる感情を捉えるとともに、主題に応じ材料や用具の特性を生かし工夫して表す。

イ 思考力、判断力、表現力等

ベンチの用途などに応じた美しく機能的なデザインを、客観的な視点に立って考える。

ウ 学びに向かう力、人間性等

形や色彩や、材料などから感じる感情を捉えるようとするとともに、ベンチの用途などに応じた美しく機能的なデザインを、客観的な視点に立って考え工夫して表そうとする。

(2) 準備するもの

教師：教科書、美術資料、ワークシート、パワーポイント 造形粘土 材料ボックス

生徒：教科書、美術資料、アートワークス、アートアルバム、ポスターカラー、筆記用具、

(3) 本時の展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	備考
導入	2分	一斉	1 前時までの学習を振り返り本時の学習目標を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">友達の意見を効果的に取り入れ、ベンチのよりよいアイデアを考えよう。</div>	○ 学習の流れを提示し、学習の見通しを持たせる。 ○ 設置する場所の雰囲気や、ベンチを使う人の気持ちや用途などから発想し、デザインしていることを意識させる。	パワーポイント アートワークス
	3分	個	2 前時の振り返りを生かして自己課題を考える。	○ 学習目標をよりよく達成するための自己課題を考えさせ、振り返りシートに記入させる。	振り返りシート
展開	8分	個	3 前時で得た友達からの意見を振り返り、デザインのよさや課題を把握する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・ 自分ではこのデザインはいいと思っていたけれど、友達からは置く場所の雰囲気と違うと言われたな。</div>	○ 形や色彩などとベンチを使う人の気持ち用途などとのつながりを意識させる。 ○ 自分のアイデアをよりよくするために客観的な視点に立ち、他の生徒からの意見を効果的に取り入れる意識をさせる。	ワークシート
	8分	個	4 よさを生かし、課題を解決するベンチのデザインの改善案を考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・ 使う人が楽しくなるアイデアはいいと思うので、もっと楽しさが伝わる形の工夫ができないかな。 ・ 置く場所が静かな雰囲気の場所だから、ベンチの色の組み合わせを類似色相の配色にしようかな。</div>	○ 1年生で学んだ配色の種類と特徴や、美ノートにある美しいと感じた写真やまとめた言葉など、これまでの学習を活用することを意識させる。 ○ 本題材の前に行った鑑賞の学習を振り返らせ、空間や場所が持つ雰囲気などとのつながりを生かし、用途などに応じたデザインであるかを考えさせる。	アートワークス 配色カード
	13分	班	5 班でデザインの改善案を紹介し合い、意見を交換する。	○ 迷っているところや悩んでいるところなど、要点を絞って意見交換させる。	
	8分	個	6 機能と形や材料の特質との調和など、より洗練されたデザインの検討をする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・ 来校された方にゆっくり座ってほしいから、柔らかい素材を使おう。 ・ 実際に粘土でつくってみると、座るところをもう少し大きくつくった方が座りやすくなるな。</div>	○ 生徒が設定した自己課題に即した机間指導を行い、生徒が表現したいと心の中に強く思い描いた思いや考えなどが具体化できるように援助する。 ○ 必要に応じて生徒に実際に素材に触れさせたり、油粘土で立体の感じを確かめさせたりすることで、生徒の造形的な視点が豊かに働くようにする。	油粘土 素材ボックス (麻布、針金、割り箸、発砲ボードなど)
終末	3分	個	7 自己課題を振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・ より置く場所の雰囲気に合うベンチのデザインになったな。 ・ 使う人がリラックスする形や色、材料のデザインの工夫ができたな。</div>	○ 次時の学習につながるよう、自己課題を振り返らせ、振り返りシートに記入させる。	アートマップ
	4分	一斉	8 全体で本時の学習を振り返る。	○ ベンチの用途や使う人の気持ちなど、デザインに込めた思いや考えと形や色彩などとのつながりを視点に、デザインをどのように工夫し、練り上げたのかを共有させる。	卓上提示装置
	1分	一斉	9 次時の予告を聞く。	○ 次の時間から実際にモデルの制作を行うことを伝える。 ○ 自分で持ってきた材料があれば持参してもよいことを伝える。	

